

平成25年1月4日

社長年頭挨拶

日本生命保険相互会社
社長 筒井義信

日本生命保険相互会社(社長 筒井義信)は、年頭挨拶として、社長から全役員・職員に向け、メッセージをおくりました。社長からのメッセージのあらまきは以下のとおりです。

平成25年のスタートにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は「みらい創造プロジェクト元年」でありました。大きな環境変化の中、一人ひとりが、日本生命の「みらい創造」を担うという意識を持ち、具体的に行動を起こした1年だったと思います。新統合戦略では、新しいインフラ・新しい事務をしっかりと活用しようとする現場の皆さんの取り組みと努力がありました。加えて、部門を越えたチャネル融合への取り組み、海外の金融機関や保険会社とのパートナーシップの拡大など、様々な部門・領域で着実な前進がありました。そして、世界経済が不透明感を強め、円高・株安・低金利という厳しい市場環境において、資産運用面では、下振れリスクに細心の留意を払いつつ、安定的な運用収益の確保に努めました。

昨年は、自己資本を一段と強化するため、初の劣後債を海外で発行しました。1600億円の発行枠に対して、大きく上回る買い注文が世界中から集まり、好条件での発行となりました。これは、当社の信用力、これまで培ってきた経営基盤、今後進もうとしている「みらい創造プロジェクト」が世界から高く評価された証であったと思います。

今年は、「みらい創造プロジェクト」の確実な達成を視野に入れるべき、正念場の年であります。「みらいのカタチ」の素晴らしさは、お客様のニーズに対応して自在に保障を組み合わせることができることは勿論ですが、保険金のお支払いを一番に考えた分かりやすい商品であることです。まさに、いざという時に、確実に保障をご提供するという、保険の本質を追求した最優の商品であると言えます。また、「REVO」は、ご加入時・ご加入後もあらゆるお客様にピッタリのプランを提案できる機能を持った最先端の携帯端末であります。そして、それら「みらいのカタチ」と「REVO」の可能性を最大限に切り拓くには、地道なフェイス・トゥ・フェイスの訪問活動が何より重要です。新統合戦略の新しい商品・新しい携帯端末・新しい事務態勢が整った今、改めてこのことを全員で共有してスタートしたいと思います。

生命保険に求められる本質的な役割は、「国民に安心・安全をお届けする」ということです。社会が不透明感を増す中、生命保険が担う役割は益々大きくなっています。こうした中で、当社が成長軌道へ反転していくためには、日本生命で働く一人ひとりが一步一步、高みを目指して進化し続けることが重要です。私も率先して行動し、果敢に意思決定をしていきます。皆さんも、それぞれの持ち場で一步一步、チャレンジを続けていただきたいと思います。

今年1年、お客様、皆さん一人ひとり、そして日本生命にとって、素晴らしい年にしてまいりましょう。

以上